

俳句

〈小学1年生・2年生〉



特選 どんぐりでライオンきりんつくったよ

亀山小学校1年 青山 柊吾

(評)

この句のよい所は、どんぐりで何を作ったかを言ったことです。ライオンやキリンを作るためには、大小いろいろなどんぐりをたくさんひろったのでしょう。考えながら楽しく作っている様子が見えるようです。ぐたいてきに言っでせいこうしています。

(彦根文芸協会 北川 栄子)

特選 学校であきをさがしにいきました

城陽小学校1年 藤井 琶子

(評)

なんとロマンチックなのでしょう。皆で校外学習に出かけたのでしょうか。「あきをさがしにいきました」とは、かんたんそうでもなかなか言えない言葉です。どんな秋を見つけたのか聞いてみたくなりました。また俳句で教えて下さいね。

(彦根文芸協会 北川 栄子)

準特選 あきのよるかいき月しよく赤かった

亀山小学校1年 神菌 樹人

(評)

三年ぶりのかいき月しよくは好天にめぐまれて、とても美しく見えました。いつもとまったくちがう赤い色の月を見た感動が、素直に表現されています。めずらしいでき事をうまく俳句にしています。

(彦根文芸協会 北川 栄子)

準特選 声かけてそだてたボクのプロトマト

金城小学校2年 村上 夕介

(評)

「声をかけてそだてた」と言う所がこの句のポイントです。花だって声をかけながら育てると、きれいな花を咲かせると言います。プロトマトも声をかけたぶんだけ、しっかりと育ち、おいしそうな実をつけたことでしょう。

(彦根文芸協会 北川 栄子)

準特選 赤とんぼ田んぼの上でおにぎり

城陽小学校2年 疋田 心春

(評)

広い田んぼの中、空をとびまわっている赤とんぼを見て、おにごっこだと感じた所に、この句の良さがあります。ぶつかりそうでぶつからない赤とんぼは、本当におにごっこをしているようです。

(彦根文芸協会 北川 栄子)



準特選 うんどう会おうえん合せんがんばるぞ

佐和山小学校2年 吉川 はな

(評) 運動会は、リレーや組たいそうが目立ちがちですが、皆で力を合わせてするおうえんも大切です。焦点がおうえんにあり、何にがんばるかがわかる良い句です。

(彦根文芸協会 北川 栄子)

準特選 いがぐりがちくちくみをねまもってる

平田小学校2年 北川 詠都

(評) いがぐりのとげは本当にいたいですね。実ってはじけると落ちますが、それでも素手ではさわれません。取られないように自分の身をまもっています。感じた事をうまく一句にまとめています。

(彦根文芸協会 北川 栄子)

佳作 赤とんぼぼうに止まって一休み

若葉小学校2年 宮本 紫衣

佳作 どんぐりがライオンさんにへんしんだ

亀山小学校2年 塩谷 莉菜

佳作 えんそくだわくわくのぼるひこねじょう

金城小学校2年 川原 結衣

佳作 春休みもうすぐ学年上がるよね

城東小学校2年 若林 柗聞

佳作 友だちとハロウィンパーティー楽しいな

城陽小学校2年 古川 愛奈

佳作 うんどう会かけっこリレーまけないぞ

若葉小学校2年 吉田 文琉

佳作 どんぐりの学校見つけ木の下で

城南小学校2年 山口 桜都

佳作 とげとげの中にかわいいくり二つ

亀山小学校1年 森 和夢

佳作 カブトムシ木のしるなめてうれしそう

鳥居本小学校1年 西村 琉響

佳作 おちばがね夕日のようにまっかだね

鳥居本小学校1年 樋口 華恋

入選 くりひろいおべんともってたのしいな

亀山小学校1年 勝間 雅

入選 もみじはね赤ちゃんの手みたいだね

亀山小学校2年 大石 佳音

入選 きこえるよ虫の声だねりんりん

城北小学校1年 田中 乙羽

入選 もみじさんいろがかわってきれいだな

城陽小学校1年 辻 国也

入選 なつのは日はぎらぎらたいようまぶしいな

城陽小学校1年 堀野 奏和

入選 あめんぼがおよいでいるよすいすいと

城陽小学校1年 坂東 蒼衣

入選 いもほりは力があるよがんばって

鳥居本小学校1年 折戸 悠莉

入選 みつけたよきれいなまるにじかかっている

稲枝北小学校1年 吉田 玲欧

入選 みいつけたばったがはねるこうていで

稲枝北小学校1年 大西 翔琉

入選 どんぐりでコマをつくってプレゼント

亀山小学校1年 田中 琉真

入選 どんぐりをひろい工作楽しいな

亀山小学校2年 田中 理桜

入選 あきのにわはっぱいっぱいきれいだね

平田小学校2年 黒田 一絆

入選 かきのたねたねはかたいぞうえたいな

佐和山小学校2年 中村 葵

入選 おちばはね風におされてどこへいく

城東小学校2年 北川 那奈

入選 木のはっぱ色がかわって秋がくる

城北小学校2年 宮島 凜

入選 七五三かわいいいきものきている子

城北小学校2年 渡 心美

入選 秋の空雲が白くてきれいだな

城北小学校2年 大塚 竜輝

入選 空をとぶとんぼを見てるまち時間

城陽小学校2年 若林 比呂

入選 やきいもをやいたら黄色きれいだな

城陽小学校2年 高木 帆香

入選 ようせいとあそんでみたいながれ星

鳥居本小学校2年 押谷 美優

入選 赤とんぼ夕日の空にすういすい

若葉小学校2年 中澤 雅也

入選 こたつはねあったかいから出られない

若葉小学校2年 横山 瑛基

入選 クリのかわむけないけれど食べたいな

亀山小学校2年 西沢 羽琉

入選 くりごはんくりがあまくておいしいな

高宮小学校2年 中野 楓愛

入選 きれいだなもみじのはっぱひらひらと

亀山小学校1年 中村 樹生



〈小学3年生・4年生〉

特選 冬近し風のようにせいまいおどる

城陽小学校4年 堀居 美里

(評) 秋の終わりには、強い風が吹き荒れます。これを「木(こ)枯(がらし)一号」といいますが、この句は木枯しの正体を、「風のようにせい(妖精)」ととらえたところがすばらしい。この句から、いよいよよきびしい冬の近づきを感じます。

(彦根文芸協会 藤田 治夫)

特選 さくらに見るみんなのえ顔もまんかいだ

城南小学校3年 勝木 藍

(評) 希望の春、ぼかぼかの日ざし、彦根城はさくら満開。いっぱいの花見客のようすが目に浮びます。「みんなのえ顔もまんかいだ」とは、たくみな表現です。希望と春が来た喜びの笑顔、笑顔、笑顔だったのでしよう。

(彦根文芸協会 藤田 治夫)



準特選 夏の葉は絵の具にでないみどり色

金城小学校4年 宮川 あかり

(評) 春から夏にかけて、野山の木々の葉は、どんどん変化していきます。きみどりの若葉はこい緑色へ、太陽の光を受けて育っていきます。このたくましい色は、えの具では表現できないすばらしい緑色。この緑色に感動したのですね。

(彦根文芸協会 藤田 治夫)

準特選 びわこにねぼっかりうかぶ夏の月

城南小学校3年 幸重 季空

(評) さんさんと太陽が照りつけるあつい夏の日も、夕ぐれとともにおさまってきます。このころ、びわこ岸へ行くと、湖の上に、まんまるい月がぼっかり浮び、湖面をきらきらと照らしています。雄大で美しい風景です。どこからか、涼しい風がふいてきそうな場面です。

(彦根文芸協会 藤田 治夫)

準特選 雪だるま気づくと四つ家族分

城東小学校4年 辰野 真末

(評) 雪がたくさん降ってよかったね。四人家族の雪だるまをつくり上げたのですね。雪だるまを夢中になつてつくったことが、「気づくと」のことばでわかります。全体から、家族が力を合わせながら、寒さもへっちゃらで取り組む元気な姿が想像できます。

(彦根文芸協会 藤田 治夫)

準特選 新米は白くかがやく宝石だ

旭森小学校 4年 辻 実優

(評) 今年も豊作でした。この句は、自分の思いをずばりいいきった気持ちのよい句です。

新米の一つぶ一つぶがまっ白でかがやき、まるで宝石のようだったのですね。「宝石だ」のことが光っています。新米のおいしそうなかおりが伝わってきます。

(彦根文芸協会 藤田 治夫)

準特選 雪のはなまちをきれいにそめていく

佐和山小学校 3年 木村 優芽

(評) 雪の結晶(けっしょう)を「ゆきのはな」とは、たくみなとらえ方です。観さつの目もするどい。木々や町の家々に、雪がつもっていくようすを「そめていく」と表現したこともすばらしい。美しい雪の町の風景が目に見えてきます。

(彦根文芸協会 藤田 治夫)

佳作 もみじ落ち池にうかぶ船になる

稲枝西小学校 4年 寺田 淳平

佳作 アメンボが川ですいすい平泳ぎ

城北小学校 3年 大西 花音

佳作 もみじの葉風に乗り乗り旅行中

稲枝北小学校 4年 松野 李音

佳作 秋の空まっかな絵の具ぬったんだ

城陽小学校 4年 菱田 佳奈

佳作 もみじの葉まっかになってわらってる

城陽小学校 3年 豊田 夏歩

佳作 お星さまキラキラほう石みたいだな

城陽小学校 3年 松村 ななみ

佳作 秋になりすすしと葉が落ちる

城南小学校 4年 伊藤 心

佳作 おち葉はね地めんをそめるえの具だよ

若葉小学校 3年 目片 舞

佳作 もみじの葉真っ赤にそまってほっぺただ

鳥居本小学校 4年 永松 光梨

佳作 もみじの葉ちらりはらりと地におちる

平田小学校 4年 西本 朔良

入選 いっぱいのきれいな落葉カーペット

亀山小学校3年 天野 未優

入選 もみじがねさむいさむいといししようがえ

旭森小学校4年 井上 桜子

入選 風あたりゆらゆらゆれる夕すすき

旭森小学校4年 上田 真羽

入選 秋になりひこ根じようがもみじいろ

城西小学校3年 西村 彩菜

入選 秋の虫はねで合唱しているよ

城北小学校3年 大澤 瑞葵

入選 楽しいなみんなであそぶ雪だるま

亀山小学校4年 岩崎 乃愛

入選 秋の夜風と虫たちのどじまん

城東小学校4年 山田 楓勇紀

入選 秋の花風にゆられてはなしてる

城南小学校4年 若林 由乃

入選 秋の風どんぐりたちがおどりだす

城北小学校4年 吉田 葉乃

入選 秋風にふかれておちばささやくよ

城陽小学校4年 三橋 力也

入選 夕日空赤いとんぼがおにごっこ

城陽小学校4年 小南 香奈

入選 くりの木はあきになつたらくりがなる

平田小学校4年 大橋 由奈

入選 こうようがきれいなおてらえいげんじ

平田小学校4年 関谷 諒晟

入選 まん月がよなかの空にひかっている

稲枝北小学校3年 川添 航希

入選 いねかりの終わったあとでかけっこだ

亀山小学校 4年 長崎 遥香

入選 赤とんぼ夕やけ空に絵をかいた

城陽小学校 4年 川崎 沙彩

入選 寒くても外で遊ぶよおにごっこ

若葉小学校 4年 川井 紀賀

入選 お父さんのひぎの上から見る花火

城西小学校 3年 一ノ瀬 剛志

入選 どんぐりが山いっぱいに落ちている

城西小学校 3年 鳥越 胡都音

入選 きらきらと雪のけっしょう光ってる

佐和山小学校 3年 増田 早雪

入選 もみじがね赤いじゅうたん作ってる

佐和山小学校 3年 大音 佳歩

入選 雪だるまわたしのほうを見ているな

佐和山小学校 3年 草刈 杏花

入選 夏の夜ながれ星見てねがいごと

佐和山小学校 3年 澤田 芽唯

入選 つばめの子すからとびたちおやばなれ

稲枝東小学校 3年 田中 彩都乃

入選 冬休みかまくらの中ポツカポカ

佐和山小学校 3年 島崎 海琉



〈小学5年生・6年生〉

特選 友達としもをふんだらもう仲良し

平田小学校5年 辻中 鈴奈

(評) 真白なきびしい寒さの中で、「しもをふんだら」もう楽しくてすぐ友だちになれたよ。この年れいでないと作ることができない日本の季節感が素直に出ています。

(彦根文芸協会 寺村 滋)

特選 新米がおいしすぎるよもう一杯

稲枝東小学校6年 山口 陽豊

(評) お母さんが幸せそうに笑っているんじゃないかな。新米の味を「おいしすぎるよ」と表現したところが子どもらしく、「もう一杯」というところに健康と食欲が見事に伝わってきます。

(彦根文芸協会 寺村 滋)

特選 玄宮園池に映るは白い月

城西小学校6年 陌間 紗佳

(評) 城の上の月を詠まずに池に映った白い月を詠んだ眼のつけどころを評価しました。池に映って少しゆれているのかも知れませんが、「白い月」の下五が印象的です。

(彦根文芸協会 寺村 滋)

準特選 さつまいも焼いておいしいこい黄色

佐和山小学校5年 西村 友星

(評) やけたかなとさつまいもをぼきんとおったときのあのきいろ。ぱくつとたべたときのあついほかほかのあじが伝わってきます。

(彦根文芸協会 寺村 滋)

準特選 秋ざくら風とおはなし笑ってる

佐和山小学校5年 田中 七海

(評) コスモスが風にゆれているようすを、「おはなし笑ってる」と表現したところがよろしい。そうおもえたのはあなたのやさしい心でよく見ていたからなのです。

(彦根文芸協会 寺村 滋)

準特選 まつたけのいいかおりだねどびんむし

城西小学校5年 喜多 源

(評) 「いいかおりだね」は本当にすなおに表現されています。どびんむしを知らない友だちもいるかも知れないのにはあなたは本当に幸せでした。日本の季節の味は伝えていきたいものです。

(彦根文芸協会 寺村 滋)



準特選 夕日照りひかりかがやくもみじの葉

平田小学校5年 北村 藍都

(評) ひるまも美しいもみじですが、夕日に照らされるとまた輝くようにいつそう美しく見えます。よく見てすなおに表現しました。

(彦根文芸協会 寺村 滋)

準特選 山の月空へ広がる風の音

若葉小学校5年 寺村 鈴華

(評) 美しい山の上の月を見ながら、そらへひろがっていく風の音を聞いている作者。目と耳でとらえた夜の大きな景色がうまく詠めました。

(彦根文芸協会 寺村 滋)

準特選 秋の空つきぬける青海のよう

亀山小学校6年 白田 凌雅

(評) 秋の空のすきとおるような深さを「つきぬける青」とはうまく詠みました。「海のように」でひろさも伝わります。

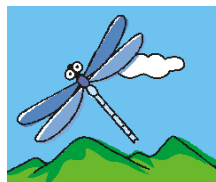
(彦根文芸協会 寺村 滋)

準特選 田んぼ道いそがしそうな赤とんぼ

佐和山小学校6年 上田 弓

(評) 赤とんぼの羽のうごきを見て「いそがしそうな」と詠んだのはおもしろい発見です。人間はまだ時間があると思っていますが、とんぼはもうすぐ飛べなくなるのかもしれないね。

(彦根文芸協会 寺村 滋)



佳作 空にまう赤いもみじに手をのぼす

佐和山小学校5年 松本 知樹

佳作 秋の山炎みたいにもえている

城東小学校5年 鶴田 杏

佳作 コスモスが風に吹かれて夢の中

城陽小学校5年 眞田 桃花

佳作 夏の日に初めて打てたツーベース

城東小学校5年 牧村 颯太

佳作 たそがれ時少しさみしい秋の風

城東小学校5年 村木 春桜

佳作 運動会ぜったい勝つぞやる気でた

城東小学校5年 馬場 柊吾

佳作 秋にはねスポーツ読書色々

城北小学校5年 長谷川 茜

佳作 オレンジの夕日がきれいだ秋だなあ

城北小学校5年 宍戸 美優

佳作 夕やけできらきら光るびわの湖うみ

城陽小学校5年 橋山 颯

佳作 やきいもで心もからだもほっかほか

平田小学校5年 伊吹 彩希

佳作 金色に光輝く麦畑

若葉小学校5年 古川 怜生

佳作 いわし雲空一面に泳ぎみる

亀山小学校5年 山岡 洗瑛

佳作 おいしいな家族みんなで栗ごはん

佐和山小学校6年 澤田 夏音

佳作 運動会チームワークが宝物

金城小学校6年 星野 駿

佳作 あかとんぼ葉のさきへのり前のめり

金城小学校6年 井上 緋茜



入選 赤ちゃんの小さな手のようもみじの葉

佐和山小学校5年 舘野 光

入選 夕暮れにもみじひらひら落ちてくる

城西小学校5年 一谷 観羽

入選 入学生ピンクの桜でおでむかえ

城東小学校5年 井入 宗大

入選 遊園地飾りはすっかりクリスマス

城東小学校5年 堤荘 友斗

入選 満月見ほっと一息つきましよう

城北小学校5年 若林 明日風

入選 秋の山色とりどりになってきた

若葉小学校5年 深石 剛史

入選 カラスなく秋の夕日はきれいだな

稲枝東小学校6年 松原 佑樹

入選 もみじの葉くきを取れば星になる

稲枝東小学校6年 伊丹 滉

入選 赤とんぼ指に止まってかわいいな

稲枝東小学校6年 西中 優雅

入選 もみじの葉いろがきれいでみとれてる

稲枝東小学校6年 青山 樹

入選 いちよう散る地面は黄色きれいだな

稲枝東小学校6年 田中 優希

入選 色づいて美しくなる秋の山

亀山小学校6年 田村 泰葉

入選 夕方の真っ赤な空に赤とんぼ

亀山小学校6年 細川 茜

入選 歩くたびかれはをふむ音なりひびく

佐和山小学校6年 小野 郁花

入選 赤とんぼぼくと友達になりましよう

佐和山小学校6年 田口 美優喜

入選 秋の空夕日がおちる時早い

城西小学校6年 渋谷 航平

入選 飯にのる宝石のような旬のくり

城東小学校 6年 大橋 史明

入選 秋桜の白やピンクのじゅうたんだ

城東小学校 6年 宮元 思緒

入選 秋とんぼ群れで大空飛んでいる

城東小学校 6年 奥 美里

入選 公園にもみじの床ができています

城西小学校 6年 多田 理那子

入選 蛍舞う夜空に輝く星のよう

城南小学校 6年 山下 玲奈

入選 つちの中五人かぞくのおいもさん

城北小学校 6年 若林 真衣

入選 焼きいもが焼きあがるまで待ちきれず

城東小学校 6年 近藤 拓空

入選 かれ落ち葉風に吹かれておどりだす

城東小学校 6年 瀧本 希佳

入選 夕やけがわたしの影をうつして

城陽小学校 6年 若林 紗帆

入選 てれやさん真っ赤にそまる秋の山

城陽小学校 6年 島津 心暖

入選 ひらひらと真っ赤なもみじ落ちていく

城陽小学校 6年 内堀 空海

入選 ほしがきがもう食べごろの季節だよ

金城小学校 6年 廣 あかね

入選 運動会絆をつなぐラストラン

金城小学校 匿名

入選 もみじの葉赤く色付き散りゆくよ

平田小学校 6年 高木 千聖

〈中学生〉

特選 公園の広さが全部蝉しぐれ

西中学校 1年 中嶋 大智

(評) 公園へ一歩足を踏みこんだ作者、静かにベンチに腰を掛けて読書などしている、公園の中が蝉の鳴き声で一杯である。蝉しぐれとは蝉が多く鳴きたてるさまを、時雨(しぐれ)の音にたとえていう語。「広さ」が少し気になるが、省略ということも大事である。着眼点も良く、更に精進されることを祈る。

(彦根文芸協会 野瀬 章子)

特選 ふくろうの鳴く声響く夜の森

中央中学校 3年 原 智哉

(評) ふくろうの鳴く声を聞いて一句にまとめられた作者、ふくろうは、城山でも聞くことがある。ほうほうと鳴く声は淋しく悲しいものである、勉強中の作者がふと耳にしての一句。落ち着きのある一句。きつと詩心のある作者だと思ふ。

(彦根文芸協会 野瀬 章子)

特選 遠くから悲しく響く鹿の声

中央中学校 3年 塚本 瑞葵

(評) 奈良の若草山に行ったとき麓に宿をとり夜中に何か鳴声を聞いた、それが鹿の鳴く声だと教えられたこと、何となく物悲しい声にそれが鹿の声だということは今も忘れられないことである。中学生にしてなかなかの名句だと思ふ。

(彦根文芸協会 野瀬 章子)

準特選 雪だるま一人じゃ寂しいもうひとり

鳥居本中学校 1年 吉田 行輝

(評) 古くは丈六仏(じょうろくぶつ)などを雪で作ったので達磨を含め「雪仏」ともいった。作者は一つでは寂しからうと思ひ、その横にもう一つ作ったのである。そして感心したのは雪達磨を人でないものを人に擬して表現したことに感心した。また次の作品が楽しみである。

(彦根文芸協会 野瀬 章子)

準特選 初夢は家族みんなで富士山に

西中学校 1年 田附 城

(評) 初夢は元日の夜に見る夢。また、正月二日の夜に見る夢を言う。作者は家族そろって富士山に登ったか、またその様なことが実現すればとの願望かはわからないが、それはそれで良いと思ふ。夢で見たのなら楽しい一日であったらうに新年にかける夢ならそれもそれで良い、新しい年にむかつて大いに羽ばたかれることを願う。

(彦根文芸協会 野瀬 章子)

準特選 風にゆれ夕日が照らすすきの穂

西中学校 1年 三原 侑奈

(評) 夕ぐれの湖畔あたりの景色をうまくとらえられている一句。沈みゆく夕日に照らされてすすきの穂が風にゆれ金色か銀色かに、光り輝き一枚の絵画を見る様である。

(彦根文芸協会 野瀬 章子)

準特選 寒椿赤く華麗に咲き誇る

中央中学校2年 上野 愛

(評)

赤い寒椿によく目が止まりましたね。
早咲きの椿は寒中に咲くところからこれを寒椿という。
白いのもあり作者は赤い寒椿が寒さにも、雪の中でも華麗に咲いている、
心優しい作者だと思う。これからもこの調子で景色や事物をありのままにう
つし取って下さい。

(彦根文芸協会 野瀬 章子)

準特選 肌寒にあと十分と思う朝

中央中学校2年 杉本 智咲

(評)

肌寒は秋深くなって、大気を肌にはやりと寒く感じることである。
あと十分。何だろうね。ベッドから出る時登校するために家を出る時間、
作者にとってその十分が大切な時間だと思う。その時間を有効に使い切るこ
とによって、作者の願いがかなう時がきつと来る筈と思う。

(彦根文芸協会 野瀬 章子)

準特選 秋晴れの湖面にうつる逆さ富士

中央中学校2年 北川 将真

(評)

湖や海の水面にさかさまにうつった富士山の影、雪の積った富士山はとり
分け美しい。逆さ富士をうまくとらえた作者。
写生に徹しているが、もう少し心情も入れられたら、なお句が生きくると
思う。句を作る回を重ねるごとに句に心が入って来る。沢山作る度に上達し
て行くことと思う。一層の努力をされることを願う。

(彦根文芸協会 野瀬 章子)

準特選 滝の音聞える静かな山の中

西中学校2年 高井 優希

(評)

ある山中に行かれた作者。ただ聞こえて来るのは滝の音ばかり、ごうごう
と落ちる滝音のすごさは紀伊の山中でも経験したことがある。それを一句に
まとめた作者。出来そうでもないのを軽く言っただけなのにそこそこの一歩
踏み出し、何を考えたか、もう少し深く心の写生をすれば名句になると思う。

(彦根文芸協会 野瀬 章子)

佳作 雪だるまとっても大事な友達だ

鳥居本中学校1年 居川 夢歩



佳作 授業中窓の外では雪が舞う

鳥居本中学校1年 西川 由真

佳作 雲の峰新しい山がまたふえる

西中学校1年 尾本 雄基

佳作 赤とんぼ夕日の下で羽ひろげ

西中学校1年 雨森 美結

佳作 すすむしや秋の空下大合奏

西中学校 1年 久門 ゆめ

佳作 部活動秋風しみる帰り道

西中学校 1年 諸岡 鈴

佳作 きれいだねうすばかげろうひらひらと

中央中学校 2年 澤田 拓海

佳作 月光は闇を色どる光かな

中央中学校 2年 青木 高宏

佳作 いちじくの甘い匂いがさそってくる

中央中学校 2年 中尾 旭

佳作 秋の声耳をすませて聞きとめる

中央中学校 2年 大森 百乃

佳作 雪が降り違って見える帰り道

鳥居本中学校 2年 宮尾 紗希

佳作 雪だるま小さくなって消えてゆく

彦根中学校 3年 藤堂 永花

佳作 めいげつやつかれをとかすじゆくがえり

中央中学校 3年 吉田 実里

佳作 秋がきた多くの山がそまっつく

南中学校 1年 奥田 蓮斗

佳作 コスモスが揺らすそよ風髪撫でる

中央中学校 2年 十河 麗

入選 体育祭心を一つに戦かった

中央中学校 2年 近藤 大晟

入選 木枯しが頬をなでゆく帰り道

中央中学校 2年 松本 小鈴



入選 かあさんの手編みの手袋ぼつかぼか

中央中学校2年 澤村 聖

入選 懐かしき匂いは風に金木犀

中央中学校2年 大野 友璃弥

入選 帰り道見上げる空に翺雲

中央中学校2年 田中 芽以

入選 渡り鳥大群つくりどこまでも

中央中学校2年 松本 阜佑

入選 ひまわりの凜凜しい姿輝いて

西中学校2年 山口 有紀乃

入選 肌寒い部活帰りの体操着

西中学校2年 藤田 雅大

入選 口の中ほのかに香る彦根梨

稲枝中学校3年 押久保 皓生

入選 雪だるま短い間お友達

稲枝中学校3年 成宮 亮太

入選 飼いねこが毛布にもぐり身を隠す

稲枝中学校3年 北川 果琳

入選 運動会子供の笑顔が輝く日

中央中学校3年 神山 栞摘

入選 湯豆腐を食べると心あつたまる

中央中学校3年 疋田 康太

入選 一年の出来事思う大晦日

中央中学校3年 北村 友梨奈

入選 セーターをあむ母を見て和やかだ

中央中学校3年 山田 雄大

入選 ペガサスが冬の夜空にいなないて

中央中学校3年 森 優月

入選 両の手をこすり合わせて息白し

中央中学校 3年 篠井 真帆

入選 せせらぎの音に混じりて蛩とぶ

西中学校 3年 小谷 歩夢

入選 梅が咲き新たな道への第一歩

西中学校 3年 前川 奈月

入選 初日の出あびて輝く彦根城

西中学校 3年 嶋田 愛佳

入選 道歩み落ち葉の会話を耳に聴く

西中学校 3年 吉原 佑哉

入選 彦根城うつくしきかな雪化粧

東中学校 3年 桂田 洸平

入選 けやき道桜舞い散る石畳み

東中学校 3年 西本 龍也

入選 お堀ぞい桜舞い散る彦根城

東中学校 3年 谷口 悠

入選 彦根城直弼も見た雪景色

東中学校 3年 小野 僚太郎

入選 こもれびの光に花が照らされる

東中学校 3年 薄井 美優

入選 雪の日に親子でつくる雪だるま

東中学校 3年 田中 詩乃

入選 秋の風もみじがきれい彦根城

東中学校 3年 藤田 滉稀



【総評】

各学年それぞれ沢山の応募をいただきました。季語（季題）もきちんと詠み込まれていて、全体に充実している様に感じられました。

大人と違って、決まりきった様に詠まない感覚の素晴らしさ、日常生活から生まれ出る俳句の新鮮さが頼もしく、心丈夫に思いました。

高校生になると、俳句甲子園もあります。これを機にどんどん俳句をし、発表して全国に大きくはばたいていただくことを、願っております。

（彦根文芸協会 北川 栄子）

今年もたくさんさんのキラキラ光る句がありました。三年生・四年生の句では、季節の動植物や自然をよく見て、自分のことばで表現できていて感心しました。

しかし、もっとすばらしい句を作るためには、次のことに気をつけてください。

・まず、俳句にとりあげるものをしっかり見つけ、よく観察してください。すると新しい発見があります。これを自分のことばで句にしてください。

・季語（季節の感じを表わすことば）を入れて句をつくってください。

・俳句は、五・七・五の十七文字ということで、ひらがなばかりの十七文字のことば句がたくさんあります。習った漢字はつかって書いてください。わかりやすい句になります。学校行事（遠足、水泳、運動会など）や地域の行事（正月、地ぞう盆、祭、節分、クリスマスなど）もチャレンジしてください。

すばらしい句を期待しています。

（彦根文芸協会 藤田 治夫）

「ひこね子ども文芸作品俳句の部」も曲がり角にきた。芭蕉や蕪村の句が、ある小学校五年の応募句の中にあつた。指導者は提出前に目を通していいのだろうか。「荒海や佐渡に横たふ天の川」を知りませんでしたではすまないだろう。ルールをしっかりと教えて応募させるべきだろう。市の水泳大会にリレーのルールも教えず練習もさせず、タイムもはからず出場させるだろうか。猛省を促す。小学生の応募作には「くり食べばかねがるなりほうりゆうじ」もあつた。

五年の市の水泳大会にオリンピックの選手に代って泳いでもらい、ぼくは早いぞと試みてみたってみんな大笑いだ。有名な俳人の句を自分の作だと応募するのは、盗作と行って大変はざかしいことなのだ。お友達の失敗からみなさんもぜひ学んでいただきたいと思う。どこかちょっと変えただけのものまね俳句もいけない。へたでも自分で作るところに楽しさがあるのだとわかってほしい。

（彦根文芸協会 寺村 滋）

沢山の応募に中学生諸君に意欲を感じた。しかし中には季題を並べただけのものもあり淋しさを覚えた。一読してすぐに覚えられる調べをもっているのが名句の一つの条件、名句には名句として認められる内容がまつてあるはず、季題を風詠（ふうえい）することによって人々のやり場を見出すものがすなわち俳句である。私も季題をいかに一句にとり込むかを絶えず選句の中心に考えている。「平明にして余韻のあるもの」こそが選句に占める大きなポイントでもある。

（彦根文芸協会 野瀬 章子）